

## 令和4年度 第1回大阪府立泉北高等学校 学校運営協議会 議事録

- 日時：令和4年8月4日（木） 午前10時から12時
- 運営協議会委員（敬称略）
  - 菊田 久雄（大阪公立大学 副工学部長）、中谷 浩治（堺市立若松台中学校校長）
  - 中村 俊一（立志館ゼミナール館長）、池内 博一（追手門学院大学 准教授）
  - 濱田 利恵子（泉北高校PTA会長）、宇田 こずえ（泉北高校後援会 会長）

校長、教頭（司会）、大内（首席、書記）、篠原（進路指導主事）、榎阪（総合科学科長）、小田（事務長）、萩原（教科書担当）

### 1. 校長あいさつ

### 2. 出席者紹介

### 3. 協議事項

- ① R3 学校評価 および R4 学校経営計画 （校長より）

学校の様子：

7月新型コロナ陽性者が増える。休業にはなっていないが、かなり多くなっている。部活動での感染なども多い。合宿を中止したクラブもあるが、どのクラブも頑張っている。夏休みに入り、3年生は講習なども頑張っている。

少林寺拳法部・女子個人・全国二位。陸上部も近畿大会出場。

国際文化科探究活動について、泉北レモンの取り組みで新聞やテレビでも取り上げられ、堺市市長への表敬訪問実施。8月16日にも東京での全国発表（高校生ボランティア・アワード2022 公益財団法人 風 に立つライオン基金主催）にも参加。

総合科学科の課題研究発表会を大阪公立大学にて実施。7月に子ども科学教室を本校にて開催し、SSH全国発表会（神戸）は物理班が出場。

夏休みの海外研修はないが、サイエンスツアー（東京）は実施。

7月にインテックス大阪にて学校説明会実施。

8月にも校外での説明会実施。

10月には校内で学校説明会を実施。

### R3 学校評価

変更は数値の修正のみ

### R4 学校経営計画

各項目の説明

→ 質問など

### ■菊田様

「確かな学力への取り組み」を客観的にどのように判断するか？

→ 進学先を判断材料とする（項目を絞るのは難しい）

「興味関心・知識技能」の肯定回答率を上げたいのは、なぜか？

→ 項目の前半（1～7）は、各教員への評価がメイン。項目8（興味）、項目9（知識）は客観性を持ったデータと思われるため。

#### ■中谷様

（1）授業アンケート 生徒の感覚（アンケート結果は高評価）と実際の成績との不一致が悩ましいところ。現実との差異をどのように捉えているのか？ どのように対応しているのか？ というのがあれば参考にしたい。

→ （教頭）対策として何かができているわけではない。データを全教員に配布し、各自が参考にしている。各教員が年度ごとに自己申告票を作成し、目標を設定している。授業の上手な先生を若手の先生に紹介するなど、校内での研修を実施している。

→ （菊田）授業の上手い下手と進学実績との繋がり？ 自宅での学習を評価する項目はあるのか？

→ （教頭）学校の授業をどれだけ集中して受けているかが重要と考えている。

（2）今年度は経過措置になっている SSH の4期認定が得られる目安は？ SSH 事業は実績もあるが、それが学力の向上にリンクしているか？

→ （担当より SSH 事業の説明内で回答）

#### ■中村様

（1）授業アンケート評価の数値が嘘をつかないのは事実だと思う。数値が低い先生への取り組みをする必要がある。数値が上がらない努力はあまり意味がなく、努力の仕方をレクチャーする取り組み（ナレッジ・マネジメント）が構築できればいいのかなと思う。

（2）進路実績の数字は、既卒生を含めていいのかな？

→ （担当より進路状況の説明内で回答）

#### ■池内様

（1）進路保証 関関同立が増えている原因は？

→ 定員の緩和の影響。コロナの影響で学校行事が縮小される中、勉強に力を注いだと思われる。

（2）進学先が偏っている気がする（関大、近大が多い）

→ 泉北の生徒は地元志向が高い。近畿圏外まで視野を広げた生徒は比較的高いレベルを上げている。

（3）シェアブラリの来場者 3,500 名、貸出 1,500 冊は、外部の人を含めているのか？ 実現できそうか？ 書籍の充実度は上がっているか。

→ 昨年度は工事もあり開館できていなかったが、今年度は活用できている。ただ、外部の方を招くことなどについてはコロナの情勢もありできていない。書籍は QR コードを用いて簡単に購入依頼できるようになった。

#### ■宇田様

（1）自分の子どもは国際文化科で英語に更に興味を持ち、その進路を実現できた。ただ、中学3年生段階で、国際か総科を選ぶことは大変。

## ■濱田様

(1) 授業アンケートの評価が高くなかった生徒への対応などをすれば良いのかな。遅刻回数なども、同じ生徒が繰り返すようであれば、その子への対応を考えることで数値も改善されるのでは。

(2) 現3年生国際文化科の保護者として。交流や留学はできなかったが、今後の見通しは？

→ (教頭) 今年度の夏から、3名が長期留学に出発。昨年度夏の夏休みでのプロジェクト型研修旅行がアドベリーとのコラボなどに繋がった。

## ② 今年度の主な取り組み

(1) 目標設定 (校長 溝端)

(2) SSH (総合科学科長 榎阪)

第4期の申請について、指定が外れたわけではなく、経過措置という形の指定校である。多くの事業を実施できているが予算配当が減っているので諦めざるを得ないものもある。泉北高校としてはできるだけ実施したい。第4期指定に向け持続性や汎用性に対する取り組みについては高く評価してもらえた。課題研究などに取り組んだことをどのように評価するのかという課題が残っている。主体性や思考力については十分育てられているとは思っているが、それが進学先に繋がらない難しさがある。総合科学科だけではなく、国際文化科も巻き込んで学校として取り組んでいくこともアピールしたい。

いろんな取り組みをすると教員は多忙となる。すべてのことを実施すると担当者が処理しきれない恐れもある。事業内容を精査して、より良い取り組みを実践したい。

→ (菊田) SSHの取り組みを、普段の授業の中にどのようにフィードバックしていけるのか、そのような進学先があるのかを考える必要があるように思う。大学で言えば、どのような就職先があるのかを心配することと同じ。

→ (榎阪) 課題研究に一生懸命な生徒が、普段の勉強に苦労していることも多い。

(3) 探究活動 (教頭 中村)

(菊田) 資金についてPTAや同窓会などから調達する工夫はあるか。活動資金を自立すべきではないか。卒業生を頼るなど、方法を考えてみてはどうか。

→ (教頭) お金をかけない活動をしている。レモンはユネスコスクールの予算10万円から捻出した。多くの事業は企業などとのコラボなので、支援していただいている。プロジェクト型研修にはSSHの予算を使って実施した。単年度ごとに考えている現状がある。方向性を探っていきたい。

→ (濱田) PTAでも考えたい。

(4) R4教科書採択 (教諭 萩原)

各教科で議論し、必要な手順で採択手続きを行っている

(5) スクールミッション、スクールポリシー (校長 溝端)

スクールミッションとスクールポリシーの概要説明

(ミッション) どのような高校であるか、どのような生徒を育てるか 10年サイクル

(ポリシー) 特色 育成を目指す資質能力 5～10年サイクル

まずはミッションを策定し、その後ポリシーを策定する流れとなっている。

#### (6) 進路状況 (教諭 篠原)

今年度新 1 年生から実施している新カリキュラムについて困っている状況。他校、大学などから情報を集めているが、9月にならないと情報が得られない学校 (大学等) も多い。

質問： 進路実績について、委員の皆さま (中学校、大学、予備校、保護者) の目線から、どのように感じておられるのかを知りたい。

→ (中村) 成績上位者の数自体が減っている現状があるので、泉北の生徒にも同じことが言える。国公立をめざすより、関関同立に絞ったほうがよいのではないか。例えば鳳と泉北の生徒で、入り口 (成績) と出口 (進学先) を比較する方法もあるかと思う。

→ (池内) 早慶、MARCH にチャレンジする生徒が出てきてほしい。

→ (宇田) 昔は一浪で関関同立が普通だったが、今では現役で行けている。が、その多くは塾に行っている生徒。経済的に通えない生徒も多いので、自習の環境を整えてもいいのでは。進路資料について、もっと親にアピールする必要があるように感じた。

→ (中村) 進路資料の説明会をしてみてもいいのか。オンライン開催などでも可能。せっかくの資料なので、もっと周知してみてもどうか。

→ (濱田) A0 入試で受かっている生徒の割合はどのような感じか。また、どのような入試だったかの情報開示はあるか？ → (篠原) ある

#### 4. その他

特になし

#### 5. 事務連絡

第2回および第3回学校運営協議会の日程について

第2回 11月22日 (火) 14:30~16:00 (予定)

第3回 2月 1日 (水) 15:45~17:00 (予定)